

【鴨部】 畑寺

風泥舎作

23 けたの池と白へび

ことになった。

その時に現れたこの白蛇に山の頂上まで導かれた。

蛇が大きな円を作ったところを掘ると、水が湧き出てきたと伝えられている。

現在、けたの池のおおよその場所とはわかるが、草深く行くのは難しい。今でも畑寺では、お盆の月の27日に盆踊りが行われている。このお話は紙芝居になっている。



畑寺に伝わる民話。
昔、水不足で苦しんでいた畑寺の地域に、水をもたらした大きな白蛇のお話。
胴回りが50cmもある大きな白蛇で、しかも目が真っ赤。神通力を持っていた。

畑寺は玉川町の他の地域よりも水が少なく、昔から苦労していたが、雨乞いの日にこの蛇を見ると雨が降るので、村人は神の化身だとありがたがっていた。

この年も雨が少なく、けたのお地蔵さんに雨乞いのお祈りをする



玉川の民話からとった手造りの紙芝居が作られている。

24 郷の元板碑



大変貴重な中世石造物。

板碑とは、板石塔婆(卒塔婆)とも言われる供養塔の一種。板状に加工した石材の正面に種子(梵字)・圖像・文字などを刻んでいる。

愛媛県内では、中世に造立された板碑の確認事例が少なく、今治地方では郷の元板碑だけが知られている。形態から判断すると、南北朝時代から室町時代にかけての造立か。平成13年ごろの調査で発見されたが、かつては道端で粗末に祀られ、災いを心配する声もあった。道路拡幅工事にもない、祀り直した。

関東地方では、加工しやすい青石(結晶片岩)の中世板碑を多く見かけるが、郷の元板碑は当地方特有の花崗岩を使用している。

形状は、山形の頭部に額部を造りだし、二条線を彫っている。身部には種子の大日如来が刻まれ、その下に七の数字が見られる。以下は折れて欠損しているが、おそらく七七日の法要の日を刻んだものと思われる。近くの光林寺には、鎌倉時代後期の宝篋印塔が2基あり、玉川町内には中世石造物の優品が多くある。

25 風泥舎

桑原孝氏が主宰する陶芸サークル。全国から土を取り寄せ様々な焼き物を作る。教室は月・火・木の夜間。希望によって体験もできる。

〒794-0116
愛媛県今治市玉川町畑寺
電話09043356132(桑原)

